

テーマ:患者さんの摂取カロリー計算を楽にしたい

■ 背景

- 入院患者の栄養管理は治療手段の1つでもある、適切に管理することで患者の状態を安定させるだけでなく、退院までの期間を含めた予後にも影響する。例えば、糖尿病患者さんでカロリーコントロールしなければいけないケース、あるいは高度栄養不良や治療により栄養状態が悪化する可能性のある患者さんで栄養状態を把握する必要があるケースなどが該当する。
- 提供される食事や点滴の総のカロリー量は予め判っているが、出された食事を全て取らない患者さんも多い。その後の治療・ケア計画を立てる上でも、各患者さんの摂取カロリーを把握したい、摂取残食事のカロリー数を簡便に測定する方法が求められる。

■ 現状の対処法

- 摂取重量を計測し、提供総カロリーをもとに概算
- 患者さんの自己申告から推定
- 残存した食事写真を基に栄養士が推定など



・信頼性に乏しい
・記録に労力がかかる

機能アイデア例

- 提供時のカロリーと食事後の写真から自動的に摂取カロリーが推定できる機能
- さらには、蛋白質、脂質、炭水化物などの栄養素別に推定できる機能
- 経時的なカロリー摂取推移がわかる機能



提供前



完食例

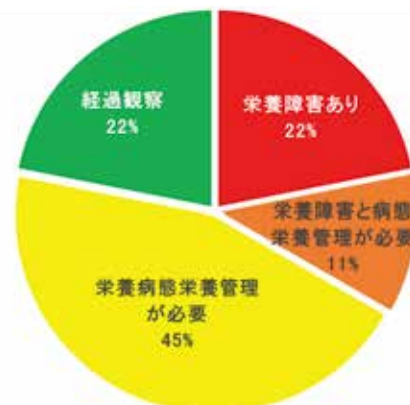


食事残し例

■ 市場性

滋賀医科大学附属病院も含め全国の多くの医療機関で栄養サポートチーム(NST)が組織されており、栄養管理業務は診療報酬加算の対象である。

2018年度の特設機能病院入院患者33,189人を対象とした入院時の調査によると約80%が栄養管理が必要と報告されている(出典:令和2年度 全国国立大学病院栄養部門会議調査「特定機能病院における栄養ケアの在り方」)。多くの医療機関が上記の課題を抱えていると推定され、この課題を効率的に解決する方法が開発されれば、採用する医療機関は多いと予想する。



■ 栄養治療部ホームページ

https://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/central_clinic/nutrition/index.html